

2017年1月26日

隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会  
会長 池田 高世偉 様

日本ジオパーク委員会  
委員長 尾池 和夫



### 第29回日本ジオパーク委員会審査結果報告書

2016年12月9日に行われた第29回日本ジオパーク委員会において、貴地域は日本ジオパークに再認定されました。その審議の過程での貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここにご報告いたします。

#### 【総評】

前回審査時に指摘されていた説明板数の増加やテーマの見直し等について、改善が認められ、特に説明板やジオサイトへの誘導板は島根県の支援体制のもと、計画的に進められた結果、十分な状況となっている。また隠岐世界ジオパーク空港をはじめ、各島のフェリーターミナルでは、随所に隠岐ユネスコ世界ジオパークの横断幕などが見られ、ジオパークの可視化が進められている。さらに増加傾向にある外国人ビジターに対応して、説明板等への英語表記やパンフレットの多言語化が進められ、4島各所に外国語に対応できる職員が常駐するなど、円滑に案内ができる体制が整えられている。また、他のジオパークでは例が限られるフランス語対応が進められている。今後も継続的に活動の改善を進めていっていただきたい。

一方で、ジオパーク活動の根幹となる地質遺産の科学的価値の評価とそれに基づいた保全活動については不十分十分な点が見られた。研究員が研究を先導できる状況を作り出し、これまでの研究支援策の強化とともに、地域住民とともに全員参加型で実施できるような研究活動の立案、実施、そしてその成果を公開して共有できる仕組み作りが望まれる。それらの成果は、ジオパークの魅力を広められるような独自のジオツアー開発やビジターがジオパークに対して期待感を抱くような仕掛けに結びつくと考えられる。また、個別のジオサイトの保全状況については、現状の記載や保全法令等の記述、管理計画を加え、カルテとして機能を果たすものに改善していくことが望まれる。

さらに取り組みを進めるべき要素はあるものの、指摘事項についてはおおむね改善されている。隠岐地域全体の経営の中核に、ジオパークが位置づけられていることなどからも、日本・アジア地域を牽引していけるような隠岐モデルを構築する期待がもてることから、隠岐ジオパークを日本ジオパークとして再認定する。

#### 【優れている点】

- ・既存のフェリーターミナルを用いてジオパーク活動が紹介され、横断幕等が見られる。ま

た隠岐世界ジオパーク空港でも、ジオパークの可視化が一層進んだ。

- ・各ジオサイトにおける説明板の設置は計画的に行われ、現在では主要なジオサイトにおける説明板は十分な状況になっている。
- ・ジオサイトへのルートは、島根県などの協力もあり、島内各地に誘導板が設置されているため、アクセスがしやすくなっている。
- ・テーマは前回審査時と比較し、隠岐ジオパークとしての伝えたいことが明瞭になっている。
- ・教育活動については、教員を取り込み、学習指導要領とも結びつけることで、ジオパークと学校教育の持続性を維持している。
- ・隠岐高校での「ジオパーク探究（3年選択、2単位）」などもカリキュラム化され、小学校から高校教育までジオパークが活用されている。
- ・事務局体制は各島の自治体から出向する事務職員の他（西ノ島町を除く）、研究員2名、外国語に対応する専門員2名が配置され、強化されている。さらに事業の推進や予算の面で、島根県との強固な協力体制ができている。
- ・全体構想と構想に基づく106項目の行動計画が予算面も含めて策定され、隠岐地域全体の経営の中核に、ジオパークが位置づけられている。
- ・交流人口について年間140,000人を維持するという明確な目標のもと、旅行者に対して満足度アンケートが行われ、ニーズの把握、質の向上が図られている。
- ・ジオパーク認定商品制度や新商品開発助成制度、ラッピング等作成助成制度などが設けられ、域内のジオパーク関連商品の開発も進められている。
- ・既存ガイド団体に加え、（一社）隠岐ジオパークツアーデスクが組織化され、認定制度も2級、1級、マイスターとレベル分けをするなど、質の向上が図られている。
- ・説明板等への英語表記やパンフレットの多言語化が進められており、4島各所に外国語に対応できる職員が常駐するなど、円滑に案内ができる体制が整えられている。また、他のジオパークでは例が限られるフランス語対応が進められている。

#### 【今後の課題、改善すべき点】

1. 緊急に解決すべき課題（おおむね1年以内）
  - ・ 今回の再審査では特になし
2. できるだけ早く解決すべき課題（おおむね2年以内）
  - ・ ジオパーク活動の根幹となる地質遺産の科学的価値の評価が求められる。
  - ・ 保全活動の一環として、ジオサイトカルテが作成されているが、現段階ではジオサイトの概要を記したものでしかない。町や村の指定文化財も含めた情報の整理が求められる。今後は、現状の記載や保全法令等（条例含む）の記述、管理計画を加え、カルテとして機能を果たすものに改善していくことが望まれる。
3. 解決すべき課題（3,4年先を視野に）
  - ・ 各ジオサイトにおける地学的な背景は、説明板に記述されてはいるが、地質遺産の科学的

価値の評価を精査することで、ガイドの解説内容や拠点施設内の展示解説の質の向上を図ることが望まれる。

- ・ 前回審査後から現在にかけて、島内の地学的研究成果は多くはない。研究助成事業、学術論文募集事業を行うなど、新たな取組が行われていて、評価できるものであるが、隠岐ジオパークの経営規模、ならびに現状での地学的知見が不足している状況から考えると助成事業の強化は検討すべき課題である。
- ・ 域内の関連団体への調査研究業務の委託が行われているが、その研究成果の公開や普及は不十分であると思われる。地質遺産の科学的価値の向上に向けて、これまでの研究支援策の強化とともに、地域住民とともに全員参加型で実施できるような研究活動の立案、実施、そしてその成果を公開して共有できる仕組み作りが望まれる。
- ・ 研究活動を進めるためにも、研究員が研究を先導できる状況を作り出すことが必要である。待遇も含めて向上されることが期待される。
- ・ テーマに関連して、「大地の成り立ち」、「独自の生態系」、「人の営み」のそれぞれのつながりについていかにしてビジターに理解を促すのか、また、それをどのようにして見つけてもらうのか検討していく必要がある。また、ビジターがジオパークに対して期待感を抱くような仕掛けがあると良い。
- ・ 状況にあわせて計画の改善を図っていく体制を構築し、ジオパーク事業と関連する事業についても、事務局が整理し公開していくことが必要である。
- ・ 旅行代理店などの企画による観光旅行対応が多い現状で、そうした事業を進めるとともに、ジオパークの魅力を広められるような独自のジオツアー開発に取り組み、その実施を進める必要がある。
- ・ ジオパークとしての質を高め、日本やアジアのジオパークを牽引していく隠岐モデルを構築していただきたい。
- ・ ユネスコ世界ジオパークとして、日本国内だけではなく、海外ジオパークとの提携を進め、ネットワークへの貢献を行い、他地域の発展にも寄与してもらい。また、エネルギー問題を含めた世界的課題、例えば国連の主導する「持続可能な開発目標 (SDGs)」に対して、ジオパークとして先導的に貢献することを期待する。

以上で指摘した点や現地審査で指摘された問題点も含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、今年度中に日本ジオパーク委員会に報告してください。このアクションプランの進捗については、4年後の再認定審査の際の審査対象とします。

以上